

新宿食支援研究会 MMY キックオフミーティング（マッスーレポ）

*メンバー 吉田真一 栗原俊介 増田翼

*日時場所 平成30年9月13日 高田馬場 ULSURA

吉田さんの受傷経験やライフヒストリーを聞き、3人で障害者の外出や外食について議論する。カメラ担当兼食レポは増田です。うまく記載する自信がないので、自分が感じたことを書いていきます。主観になるので違うと思ったことはご指摘ください。

1. 障害者と社会のバリアについて

吉田さんはなんでも明るく気さくに話してくれました。受傷後に落ち込んだこと、そこから家族や、バンドの仲間、奥さん、それしてヘルパーのTさんなど、様々な方に支えられて、その経験が今の会社、株式会社でいぐにていを設立する経緯に至ったこと。印象的なのは「戻ってきた」という言葉。受傷後25年たって、一人で遠出できることは、健常者と同じように行きたい場所にいける生活に戻ってきたということ。それとは別に、人との繋がりが戻ってきた。と言う人間関係のバリアが取り払われてきたということ。社会生活を営むことによって悩みもある。否定もされる。それは僕も同じように経験していることだし、障害者というラベリングで特別扱いされるところから、普通の人と同じように対人関係が築けること。誤解を招いてしまっは申し訳ないのですが、吉田さんは僕なんかよりもずっと素晴らしい人です。活発で、人と人とのつながりをとても大切に考える方です。健常人の僕と同じような悩む機会を手に入れたと言うことが言いたいではありません。

でいぐにていの代表として、従業員の方を大切に思い。職場の環境を改善するために様々な取り組みをされている中で、上司と部下のバリアを取り払うため、従業員の言いたいことをなんでも言ってもらうといった企画が9月14日行われると。また部下からミーティングではなく、「とにかく僕たちの話を聞いてくれ」と言われ耳を傾けたこと。こういった話を聞いていく中で健常人と障害者のバリアだけではなく、人間関係においては普段から様々なバリアが存在するということを改めて気づきました。MMYの活動をして外出支援がありますが、障害者として外出なんてできないといったバリア。社会として電動車椅子の方がうちの店を使うなんて無理だよといったバリアを取り払っていくこと。お互いできないと思い込んでいるフレームを取り払い、こういった場所なら外出できる。こんな方なら来て頂いても大丈夫といった考えをリフレームしていくことで、双方の交流が生まれる機会を提供したい。

「障害者は社会参加しないといけない」といった決めつけをするのではなく、外出する際の選択肢を用意しておくこと。その方にあったテラーメイドの外出プランを考え、ニーズにあった選択肢を用意する。社会参加への意思決定支援をしていく必要がある。そのためには僕たちがいつでも相談してくださいと、扉を開けてことが重要ではないか。

2. 摂食嚥下認定士として感じたこと

ビールをストローで飲むのは人生で初めての経験でした。吉田さんが普段どのように食事を取っているのか一緒に経験してみようと思い、試してみましたが、意外とおいしい。グラスやジョッキでぐびっと飲むよりホップの香りが際立ち、これはこれで趣のある飲み方でした。ただ吉田さんも話していましたが食べ物にはおいしい食べ方がある。フォークを使って食べるとどうしても鉄の味がする。他にも蕎麦や寿司を食べる際に箸を使えないなど、その食事を食べるのに一番適した食べ方ができないことがあると。食事は楽しみだからその方が一番おいしいと思う食べ方で食べて頂きたい。ただ食べればいい、栄養が取ればいいではないと思う。最高の食事の場を提供するためには、食べ方にも関心を持たなくてはいけないと認識を改めることができた。焼肉の肉は誰だって丁寧に焼くと思います。吉田さんも話していました。『野菜はこぼすけど、焼肉はこぼさない。』MMYの活動として吉田さんに箸で蕎麦をすすってもらうという新たな目標ができました。栗原さんによる吉田さんのシーティングも期待が高まります。

3. 今後の活動

URSULAは吉田さん行きつけの店だけに、入り口に段差解消用のスロープがあり（お店の人はいつつけたかわからない、気づいたらあった笑）、ドアを開閉や、椅子の撤去など車椅子の方でも入りやすい環境が整っていました。ただ、トイレの前には段差があり、車椅子での使用は困難であるため、周囲に車椅子の方が使用できる公衆トイレがあるかなど、環境を確認しておくべきでした。お酒を飲むとどうしても尿量が増えるため、間欠的の自己導尿の方はトイレを使用しにくいと思います。その他、僕が気になる点はありませんでした。次回は是非、五島先生も交えてミーティングをさせて下さい。今後も車椅子の方や移動障害のある人が入りやすいお店を探し、評価基準（MMY）を作成していく方針。食べ方を研究するのであれば、やはり、PT・OT・STにも参加して頂きたいです。